# 水産情報速報版

H18.4.14　№1188
**静岡県漁業協同組合連合会**
☎054-254-6011　Fax054-253-9343
編集・発行＝指導部漁政課
URL:http://www.jf-net.ne.jp/sogyoren/


**１．第37期入学式を挙行　立派な海の男を目指し25名が入学　－県立漁業高等学園－**

静岡県立漁業高等学園(上村信夫園長)では、4月10日多くの漁業関係者が出席する中で、平成18年度(第37期生)の入学式を挙行しました。

式典では、上村園長の式辞に続いて戸本焼津市長、西川後援会会長(本会会長)からそれぞれ祝辞が述べられました。

その後、新入生を代表して航海科の加藤誠人君(裾野市)が「友と助け合い学習に励み、本県漁業の将来を担う良き後継者となるよう努力します」と誓いの言葉を述べ閉会しました。なお、新入生は全員寮に入り、漁業に関する基礎的な学習を行い、1ヶ月に亘る航海実習などにも取り組み、来年の国家試験で5級海技士以上の資格を取得することを目指します。

本年度入学者の出身地の内訳は次のとおりです。▽県内19名：伊東市3名、伊豆市1名、裾野市1名、静岡市4名、焼津市1名、藤枝市1名、島田市1名、菊川市1名、掛川市1名、磐田市1名、浜松市4名　▽県外6名：埼玉県、神奈川県各2名、長野県、長崎県各1名

**２．浜名湖の有害プランクトン発生の仕組み研究に取り組む**

県水産試験場浜名湖分場は、今年度から3ヵ年に亘り、平成15年から毎年浜名湖で発生し、特産の養殖カキやアサリに被害を与える赤潮の原因とされる有害植物プランクトン「ヘテロカプサ・サーキュラーリスカーマ」について、発生の仕組みを探る研究を本格的に始めます。

ヘテロカプサは、湖水1cc当たり千個以上になると赤潮となり、事実上対策がない状態ですが、発生しやすい塩分濃度、水温が分かれば、危険予測を出すなどしてカキの養殖いかだを移動させたり、アサリがへい死する前に漁獲するなど、漁業被害を最小限に食い止めることが可能だとしています。

また、これまでの調査ではヘテロカプサは9～10月、潮流が巻き上がる栄養分豊富な泥の影響で多く発生することが分かっているほか、ヘテロカプサの大きさは0.02～0.03ﾐﾘで、アサリ・カキをへい死させるが、人体、魚類、甲殻類には無害です。

**３．海藻の発酵物でマダイイリドウイルス病を撃退**

独立行政法人水産総合研究センターは、海藻を発酵させる技術を開発し、得られた発酵産物の産業利用の研究に取り組んでおり、このほど、日本水産株式会社と共同でエクロニア(南アフリカ原産の褐藻類で、日本にも生育するカジメの種類)という海藻を原料として調整した発酵産物を養殖の餌に配合してマダイに与えたところ、養殖現場で問題となっているイリドウイルス感染症に対する抵抗性が高められることを確認しました。

近年、養殖の現場では、様々な病気が発生して漁業被害を与えています。特にウイルス感染症の場合は、大量感染・大量斃死につながる危険性があるため、養殖業に大きな影響を及ぼします。

安全・安心な水産物供給と活力ある漁業づくりに努めよう

自立漁協の構築に向け合併・事業統合を進めよう

これまで、同センター養殖研究所などが中心となりワクチン開発の分野で成果を上げていますが、ワクチン処理にはコストがかかることや、新しいウイルス感染症が発生するたびにワクチン開発を行わなければならないなどの問題があり、餌を食べさせるだけで魚の免疫機能を高めることができれば理想と考えられ、今回の技術開発となりました。

**４．5月に東京・大阪で漁業就労支援フェアを開催**

大日本水産会は、新たな漁業就業者を発掘するため、平成18年度の「新規就業者・育成支援事業」を実施することになり、5月13日に大阪(毎日新聞社オーバルホール)、同20日は東京(国際フォーラムD7 )で、漁業就労支援フェアを開催します。

この事業は、これからの漁業を担う意欲的な人材を確保するため、漁業現場で一定の研修を行い、求職者は仕事内容、漁家や船主など求人側は就業希望者の人柄・適性などを相互に理解し、円滑な雇い入れを行うことを目的に実施します。

研修を行う漁家や船主には指導員謝礼金が支払われるほか、就業支援フェア参加旅費、研修教材費、安全対策備品(長靴・合羽など)費、保険料にも経費が支払われます。

また、研修生には1日3時間程度の研修が行われ、研修時間以外の軽作業に対してアルバイト賃が支払われます。

この支援フェアでは、就業希望者と受け入れ側が一堂に会して面談し、希望する業種、人柄ややる気などを確認し合い、希望者は漁協・漁業別組合(一次受入機関)が行うオリエンテーションに参加し、地域漁業の概要、船上作業の内容・注意点などの説明を受けます。これを受けて、漁業就業者になるための技能･技術を習得する漁業現場での実践研修を3ヶ月～6ヶ月間実施します。

▽問合せ先：㈳大日本水産会　TEL:03-3585-6681

**５．新刊図書紹介　「魚との知恵比べ－魚の感覚と行動の科学－」　川村軍蔵著**

成山堂書店が昨年9月に2訂版を発行した「魚との知恵比べ－魚の感覚と行動の科学－」が、漁業者のみならず一般の釣り人などからも注目を集めている。

同書には魚の学習の能力という視点から、釣られやすい魚と釣られにくい魚の遺伝的な検証を行うなど、ユニークな実験などを交えて説明されています。テーマも多岐にわたり、「眼」「好む色」「好む音と嫌う音」「好む味と匂い」を科学的に解説しています。このほか、伝統的な漁法である集魚灯漁法や人工魚礁、かご漁具なども科学的な観点から語られています。

▽価格：1,600円(税込)　▽問合せ先：成山堂書店　TEL:03-3357-5861

**６．会議・日程(4月18日(火)～5月1日(月))　－既報分省略－**

| | |
|---|---|
| 4月18日(火) | 県養鰻協会＝養鰻業の今後のあり方検討会　(県水産会館) |
| 4月20日(木) | 県信漁連＝理事会　(　〃　) |
| 4月22日(土) | 県漁連＝口坂本の森クラブ活動　(静岡市口坂本) |
| 4月25日(火) | 県漁業振興基金＝評議員会　(県水産会館) |
| 4月26日(水) | 県漁業振興基金＝理事会　(クーポール会館) |
| 4月27日(木) | 県漁連＝理事会　(県水産会館) |
| 〃 | 県JF共済推進本部＝運営委員会　(　〃　) |

漁協系統事業の全利用運動を進め組織の強化を図ろう